

【原著】

セルフアクセスセンターにおける自律学修を促す 教育プログラムの実践について

ラットソングリフィス 佑加理, ジョーダン スヴェン

Independent Learning Programs at a Self-Access Learning Center

Yukari Rutson-Griffiths and Jordan Svien

概 要

広島文教大学 Bunkyo English Communication Center (BECC) の Self-Access Learning Center (SALC) は、様々な学習資源や教育サービス、学習の機会を通して、学習の個別化と自律学修の涵養という2つの役割を担っている。本稿では、自律学修を促進し支援するために近年 SALC が行った2つの教育プログラムについて述べる。まず、2018年度と2019年度に実施した自律学修プログラムでは、個別学修相談を通して、学習の目標設定や学習計画の立て方などの自律学修を遂行する上で必要なスキルの習得を支援した。また、数週間に亘って実施したグループセッションを通して、SALC 内の様々な学習資源の活用方法を教授した。2021年度に行ったスピーキングプログラムでは、既存の教育サービスを活用しつつ、スピーキング力向上のための学習方法を紹介するプログラム独自のワークショップや、個別学修相談、学生同士による会話練習セッションを導入し、自発的な学習を促した。本稿の後半部分では、プログラム終了時に行ったアンケートの結果をもとに、プログラムの効果や今後の課題について述べる。

Abstract

The Self-Access Learning Center (SALC) at the Hiroshima Bunkyo University Bunkyo English Communication Center (BECC) plays a dual role of individualizing and cultivating self-directed learning by providing educational services and various learning resources and opportunities. This paper describes two educational programs that the SALC recently conducted to promote and support self-directed learning. First, the Independent Learning Program, a program designed to promote autonomous learning, was conducted in 2018 and 2019. Through individual learning consultations, students learned the skills necessary for self-directed learning, such as goal setting and how to make a study plan. During group workshops held over the course of the program, students were taught how to utilize various learning resources within the SALC. Second, the Speaking Program was conducted in 2021. While utilizing existing educational services, the SALC introduced workshops unique to the program to promote speaking skill-building learning methods. Furthermore, the program provided individual learning consultations and conversation practice sessions between students to encourage voluntary learning. The second half of this paper describes the effectiveness of the programs and future considerations based on the results of

post-program surveys.

1. はじめに

広島文教大学の英語学修専用施設である Bunkyo English Communication Center（以下、BECC）は2008年に設立され、下記の理念のもと教養科目及び専門科目をはじめとした、全学年学科に対する英語教育を行なっている。

ビジョン

中国四国地方の私立大学における英語教育のなかで、高校の教員、保護者、受験生に広島文教大学を一番に選んでもらうこと。

ミッション

- ・私たちは、実社会で役立つ、意欲を掻き立てる魅力ある英語教育を行います。
- ・私たちは、卒業生が本学で培った語学力と文化知識を活かし、社会に貢献することを確たるものにしめます。
- ・私たちは、学生が意欲的に、且つ責任を持って社会に貢献し、自立した社会人として成長する手助けをします。

（BECC Handbook 2021-2022 p. 7より引用、原文の和訳）

授業を通して行う英語教育に加え、BECCには Self-Access Learning Center（以下、SALC）が存在する。SALCの役割は、学習を個別化することにより学習者の異なる習熟度やニーズに応じた学修支援を行うこと、英語学習における自律学修を促進・涵養することの2つに大別することができる。英語学習と一口に言っても、習熟度や学習の目的、目標、興味や関心などは学習者それぞれ異なるがゆえ、学びの形態も様々である。多様な学びを支援するため、SALCでは日常的に、学習環境の管理や学習教材の管理及び開発、利用を促進するためのイベントやキャンペーン等を年間を通して行なっている。

学習の個別化を可能にし、自律した学習者を養成するといった意味で、個別学修相談は本学SALCの最も特徴的な教育サービスのうちの1つである。アドバイジングセッションと呼ばれるこの学修相談では、通常一対一の形式でBECC専属のラーニングアドバイザーと学習者が、これまでの英語学習を振り返り、学習の目的や目標を確認しながら、学習者それぞれに合った学習の形を模索する。教材や学習内容の提案、学習計画などの直接的な学修支援を行う一方で、アドバイジングセッションの主な目的は、学習者自身が習熟度やこれまでの学習を振り返り、目標をもとに学習の道筋を描き、実践し、時には調整を行えるように支援することを通して自律した学習者を養成することである。

アドバイジングセッションに加えて、英語を使いながら学ぶ機会が豊富にあることも広島文教大学SALCの特色の1つである。SALCには、BECC専属の英語教員と会話を楽しみながらコミュニケーション力が磨けるラウンジや、フリートークセッションと呼ばれる一対一の事前予約制英会話セッションがあり、一人ひとりの習熟度に合わせたコミュニケーション力を養うことができる。学習の機会が豊富にある一方で、中には利用することを躊躇してしまう学習者もあり、個別学修相談ではこうした教育サービスを活用できるように支援することも多い。

このような学習の個別化と自律学修の促進を目指した日常的な取り組みを行なう中で、SALC

の自律学修支援と、豊富な学習資源や教育サービスの活用に加え、学習者同士が共に学べる教育プログラムが実施できないかと考え、2018年度及び2019年度に自律学修プログラムを、2021年度にスピーキングプログラムを実施するに至った。本稿では、これらの教育プログラムの実施内容と学生による評価とその考察、今後の課題について述べる。

2. 自律学修を促すプログラム

2.1 自律学修プログラム

近年 SALC で行った教育プログラムの先駆けとなったのが、自律した英語学習者の養成と教育資源の活用促進を目的に、2018年度後期と2019年度前期に実施した BECC 自律学修プログラム（英文名称：Independent Learning Program）である。多くの学生が自主的に SALC やラーニングアドバイザーによる個別相談を利用している一方で、初めの1歩が踏み出せずにいる学生や、学習が長続きしない学生、自分に合った学習方法が見つけれずにいる学生も少なからず存在する。このプログラムでは、そのような学生を対象に約3か月間の学習プログラムを組み、学生の自律性を涵養したいと考えた。初年度は、その年に入学した全学科1年生を対象に参加者の募集を行ったが、翌年度は全学科全学年を対象とした。スタッフの数や、プログラム参加者以外の学生へのサポートの必要性を考慮し、どちらの年も参加者を16名に限定して募集を行った。詳細を表1にまとめる。

表1 自律学修プログラムの実施期間、対象学生、参加者数

	実施期間	対象者	募集人数	参加者数
2018年度	2018年10月24日～ 2019年1月16日	全学科1年生	16名	17名 (申し込みがほぼ同時であったため 1名多く受け入れた)
2019年度	2019年6月12日～ 10月16日	全科学年	16名	16名

大まかなプログラムの内容は表2に示す通りである。参加者全体に向けた初回オリエンテーションと最終回の振り返りセッションに加え、期間内に数回行われるグループセッションを通して、BECCのラーニングアドバイザーがSALCの活用方法や学習方法を伝授した。また、計2回の個別学修相談を通して、参加者それぞれが学習目標と学習計画を立て、実行に移す支援を行った。

表2 自律学修プログラムのスケジュールと内容

	内容	2018年度の実施日	2019年度の実施日
第1週 全員参加の初回オリエンテーション	SALC ツアー スケジュール確認 学習の振り返り 目標設定	10月24日	6月12日
第2～5週 グループセッション	さまざまな学習方法の実践	10月29日～11月22日	6月17日～7月12日

第6週～ 個別学修相談（2回）	学習目標の設定 学習計画 学習計画の調整	11月26日～1月15日	7月8日～10月11日
最終週 振り返りセッション（総括）	プログラムの振り返り 新しい課題・目標の設定	1月16日	10月16日
プログラム終了後	小レポート	1月23日までに提出	10月26日までに提出

2.1.1 初回オリエンテーション

参加者全員に対しての初回オリエンテーションでは、SALCの活用方法を紹介するツアーに始まり、高校や大学での英語学習についてそれぞれが振り返りを行った。その後、自身の英語学習の目的や目標を再確認し、短期目標を設定した。最後にグループセッションについての説明を行い、各自が自身のスケジュールに合わせてセッションの登録を行った。

2.1.2 グループセッション

SALCでは、個々の興味や関心に応じた学習が実現できるよう、様々な教材を取り揃えている。このプログラムでは、その中でも洋楽、映画、マンガを用いた学習方法を、グループセッションという形式で実践的に学べる講座を開講した。また、これらのオーセンティック教材を用いた学習講座に、スピーキング力を伸ばすための学習方法が学べるセッションを加え、4週間それぞれの講座を複数回開講した。グループセッションのスケジュールを作成する際には、プログラム参加者らの時間割を参考にしながら、参加者が自身の都合の良い時間帯にセッションを受講できるよう配慮した。4種類のセッションを開講したが、受講は必須とせず、あくまでも参加者の希望と自主性を尊重した上で、セッションは全て自由参加且つ事前登録制とした。

2.1.3 個別学修相談

数週間に亘りグループセッションを開講した後、全ての参加者に対し、2回の個別学修相談を行った。このセッションでは、それぞれの参加者がラーニングアドバイザーとともにこれまでの英語学習や学習目的について振り返った後、短期間で達成可能な学習目標と計画を一緒に立てた。2回目の学修相談では、学習の進み具合を確認し、必要であれば学習目標や計画の調整を行った。参加者らが設定した目標は英語検定やTOEICの受験に向けた学習を中心としたものから、洋楽が歌えるようになること、SALCで教員と英語で話す習慣を身につけること、自分のことについて話せるようになることなど、様々であった。

2.1.4 振り返りセッションと小レポート課題

プログラムの総括として、プログラムで行った学習を振り返るグループセッションを実施した。まず、ワークシートに記入する形で、グループセッションで学んだことや、個人が設定した目標の達成状況や学習の進捗状況など、参加者それぞれがプログラムで学んだことを内省する時間を設けた。その後、グループに分かれてワークシートに書いたことをもとに、プログラムに参加した感想や今後の課題について他の参加者と話し合う機会を設けた。最後に、今後の学びに繋がるよう、次の目標や行動内容についても話し合った。セッションの最後には、プログラムに関するアンケートを実施した。また、参加後には、振り返りセッションも含めた総括として、日本語でプログラム全体についての感想を小レポートにまとめる課題が与えられ、数ヶ

月に亘る自身の学習についてより深く内省し、今後の英語学習について考えることが求められた。

2.2 スピーキングプログラム

2021年度後期には、SALCの教育サービスや学習資源を活用しながらスピーキング力を磨く学習方法が学べるプログラムを開講した。このプログラムにおいても、スタッフの数とその他の学生への学修支援を考慮し参加者を先着10人に限定して募集を行った。表3に示すように、第1週の個別学修相談に始まり、第2週では会話力や発音を向上させるためのワークショップを複数回開講した。第3週では2回目の個別学修相談を行い、個々の習熟度や目標、学習の進捗状況に合わせた学修支援を行った。最終週には、プログラムの総括として振り返りのためのグループセッションを実施した。また、プログラム2週目からの3週間は、参加者のみで行う会話のセッションを取り入れ、学習者同士が集まりスピーキングの練習を行う機会を設けた。以下、それぞれの項目について詳細に述べる。

表3 スピーキングプログラムのスケジュールと内容

	内容	実施日
第1週 個別学修相談 1回目	スピーキング力のセルフチェック アドバイザーからのフィードバック 目標設定 様々な学習資源や学習方法の紹介 グループワークショップや学生同士の会話セッションについての説明と事前登録 学習計画	11月29日～ 12月3日
第2週 ワークショップ	会話編 -ウォーミングアップ -スピーキング力上達方法の紹介と実践 -SALCラウンジやフリートークセッションの活用方法の紹介 -自宅にて一人でもできる学習方法の紹介 -流暢さや文法の正確さを伸ばす学習方法、会話を長続きさせるための方法などの紹介 発音編 -ウォーミングアップ -日本語母語話者の英語アクセントについて -日本語にない母音と子音の学習方法 -英語の音節について -強弱やリズムについて -流暢さと発音について -洋楽を用いた学習方法 学生同士の会話セッションの開始（第2週から第4週の期間）	12月6日～ 12月10日
第3週 個別学修相談 2回目	学習内容・活動の振り返り 学習目標と計画の振り返り 学習計画の調整 翌週の振り返りセッションについて	12月13日～ 12月17日

第4週 振り返りセッション	学習内容・活動の振り返り スピーキング力のセルフチェック 学習目標と計画の振り返り 新たな目標と学習計画の設定 プログラムに関するアンケート	12月22日もしくは12月23日のいずれかに参加
------------------	--	--------------------------

2.2.1 プログラムの目標

プログラムでは下記の4点を目標として掲げ、参加者の自律性を涵養するよう努めた。また、これらの目標を初回のセッションで用いるプリントに明記し、プログラム参加者と共有した。

- ・スピーキング力向上のために、実現可能な目標を設定できるようになること
- ・設定した目標に応じて適切な学習資源が活用できるようになること
- ・設定した目標を達成するための学習計画が立てられるようになること
- ・日常の中で英語を話す機会や量を増やすこと

2.2.2 個別学修相談

プログラムでは、第1週と第3週に1回ずつ、合計2回の個別学修相談を行った。初回のセッションでは、まず参加者が自身のスピーキング力を振り返ることに始まり、その後ラーニングアドバイザーと英語で会話を行い、アドバイザーから文法力や語彙力、流暢さ、発音などに関してフィードバックを受けた。その後、3、4週間程度で達成できる目標をそれぞれが設定し、SALCで活用できる学習資源や学習方法などを確認した後、学習カレンダーを用いて学習計画を立てた。学習計画の詳細は参加者それぞれ異なるが、全ての参加者がSALCラウンジとフリートークセッションでのスピーキング学習を計画の中に盛り込んだ。さらには、後述するグループワークショップや参加者同士のスピーキングセッションに関する説明を受け、参加登録を行った。2回目の個別学習相談では、学習の進捗状況を確認し、必要に応じて学習計画の見直しを行った。

2.2.3 学習カレンダー

個別学修相談において作成した学習計画は全て学習カレンダーに書き込んだ。本プログラムで使用した学習カレンダーは、通常のアドバイジングセッションで使用しているものにくらか手を加えたものである。通常のアドバイジングセッションにおいても、目標を設定した後、日ごとに学習タスクを設定しカレンダーに書き込む作業を行う。本プログラムはスピーキング力向上に特化したものであることから、こうした日ごとの目標に加え、プログラム全体を通して英語を話す時間を増やすことを目標として設定してもらった。さらに参加者には、英語を話す度にどのくらいの時間話したかを30分単位で、またどういった場面で話したかを色ごとに分けて記録してもらった。

BECCの授業では、数年前から授業プリントの配布や課題の提出を目的として学習管理アプリ Showbie を使用していることから、アドバイジングセッションにおいても学生の意向を確認した上で、Showbieで学習カレンダーをラーニングアドバイザーと共有することがある。本プログラムにおいても Showbie の活用が効果的であると考え、個別学修相談で作成した学習カレンダーを、Showbie 上で担当のアドバイザーと学生間で共有した。参加者にはその日のタスクが完了できると、学習カレンダーに記録をしてもらった。参加者が Showbie 上で記録を行うと、

担当のアドバイザーに通知が届き、これによりプログラムの期間中の学習がモニタリングできるようになった。

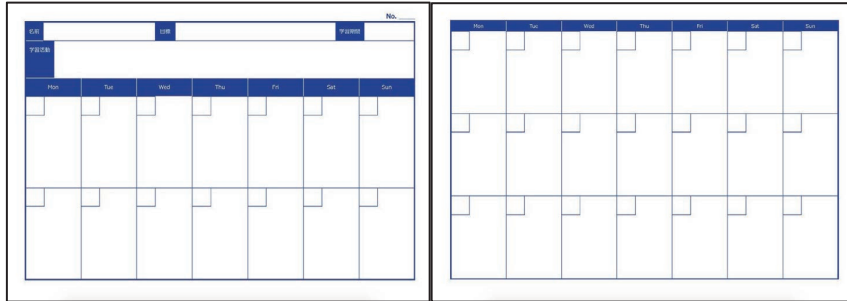


図1 スピーキングプログラムで使用した学習カレンダー（1～2ページ目）

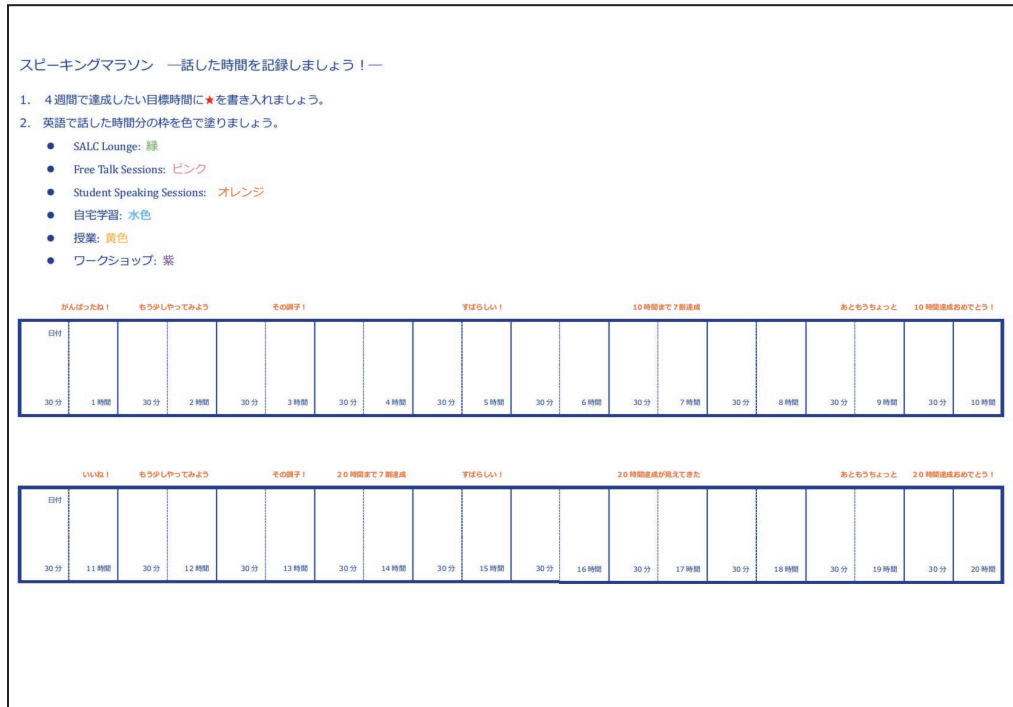


図2 スピーキングプログラムで使用した学習カレンダー（3ページ目）

2.2.4 グループワークショップ

第2週には、会話力を伸ばすためのワークショップと発音強化のためのワークショップの2つを開講した。自律学修プログラムと同様に、参加自体は自由とし、参加者全員が受講できるよう週の中で複数回開講した。どのセッションにおいても、ワークショップの目標を参加者と共有し、ウォーミングアップやスピーキングのタスクなど、実践を通して個々のスピーキング力を伸ばす学習方法を紹介した。また、会話力を伸ばすワークショップにおいては、SALCの教育サービスを活用した学習方法や、自宅にて1人でもできるスピーキング力強化の方法などを紹介した。発音ワークショップでは、日本語母語話者によく見受けられる英語のアクセント

や、日本語にない英語の母音と子音、英語の音節やリズムについてなど、実践を交えながら発音を強化するための学習方法を紹介した。

2.2.5 参加者同士の会話セッション

ラーニングアドバイザー主導による個別学修相談やグループセッションに加えて、このプログラムでは参加者が中心となって構成するスピーキング練習のためのセッションを第2週から第4週までの3週間開講した。セッションで話す話題は自由であったが、トピックが選びやすく、且つ会話が続くようにと、初回のセッションではSALCにある教材を使用するよう勧めた。また、ラウンジに教員がいる時間帯は、参加者同士で話すかラウンジの教員と話すかを集まった参加者の間で話し合うよう伝えた。参加者の中には、友人やクラスメイトとプログラムに参加している学生もいれば、1人で参加している学生もいたため、お互いの連絡先を知らず日程調整が困難であることが予想された。そのため、ラーニングアドバイザーが予め参加者が集まりやすい時間帯を確認し、事前に参加可能な時間帯を登録してもらったり、互いに連絡が取りやすいようにしたりと、ファシリテーターとしての支援をある程度行ったが、実際のセッションに参加することはせず、あくまでも参加者中心のセッションであるよう努めた。

2.2.6 振り返りのグループセッション

プログラムの第4週には、総括として参加者が集まる振り返りのためのグループセッションを開講した。セッションでは、まずプログラムを通して行った学習活動や、利用したSALCの教育サービス、参加者同士の会話セッション、それぞれが自宅で行った学習内容や方法など、プログラムの様々な側面について参加者同士で感想や意見を述べることから始まった。その後、第1週で行った自身のスピーキング力やスピーキング学習に対する姿勢について振り返りを再度行い、個別セッションで設定した目標や進捗状況、学習成果を確認し、今後の目標や学習計画について考える時間を設けた。自律学修プログラムと同様、プログラムの最後にはアンケートを実施した。

3. アンケート結果

2018年度及び2019年度の自律学修プログラム、2021年度のスピーキングプログラムの両プログラムにおいて、終了時に全参加者対象のアンケートを実施した。これらの調査は、プログラムの様々な側面を評価することや、参加者らに自分の意見や考えを示す機会を与えることを目的とした。どちらのプログラムにおいても、参加者全員に対して、研究の目的に加え、アンケートの回答及び研究への協力は任意であることを説明した上で行った。また、個人が特定できないよう匿名での回答とし、回収した回答はパスワードのかかる機器及びファイルに適切に保管した。回答数についてはそれぞれの項目において後述するが、回答者全員から研究への協力について同意を得たことをここに記す。

3.1 自律学修プログラムに関するアンケート

自律学修プログラムに関するアンケートでは、初回のオリエンテーションに始まり、グループセッション、個別学修相談、プログラム全体の評価について調査した。グループセッションに関しては、各セッションで紹介した学習方法（映画、洋楽、マンガ）に対する関心に変化があったかどうかや、セッション参加後に実際にこれらの学習方法を用いた学習が増加したかど

うかについて尋ねた。さらに、個別学修相談については、予約方法に加え、学習方法の選定、目標設定などといった自律学修スキルの習得について意見を求めた。2018年度は参加者17人中16人、2019年度は参加者16人中15人がアンケートに回答した。

表4 自律学修プログラム初回オリエンテーションに関する評価 (Q. 次の文章を読んで、「全くそう思わない」から「強くそう思う」の5段階から当てはまるものを選んでください。)

項目	スコア (平均値)	スコア (%)
初回ワークショップでの説明を受けて、「自律学修プログラム」の趣旨を正しく理解できた。	3.68 (2018=3.63) (2019=3.73)	92% (2018=91%) (2019=93%)
初回ワークショップでの説明を受けて、「自律学修プログラム」の流れやスケジュールを正しく理解できた。	3.68 (2018=3.63) (2019=3.73)	92% (2018=91%) (2019=93%)
SALC ツアーに参加することで SALC にある教材や SALC の利用方法が良く分かった。	3.61 (2018=3.63) (2019=3.60)	90% (2018=91%) (2019=90%)
グループセッションの登録方法は簡単だった。	3.23 (2018=3.13) (2019=3.33)	81% (2018=78%) (2019=83%)

表4は、初回オリエンテーションに関する質問への回答を示している。これらの質問は、リッカート尺度を用いて行われ、回答者には、それぞれの項目に対して「全くそう思わない」、「そう思わない」、「どちらでもない」、「そう思う」、「強くそう思う」の5段階から自身にもっとも当てはまるものを選択してもらった。ここでは、「全くそう思わない」を0、「強くそう思う」を4として集計を行い、表4には、それぞれの項目ごとにスコアの平均値と、それをパーセンテージ化したものを示している。全体的に、オリエンテーションは非常に肯定的に捉えられており、SALC ツアーとオリエンテーションでの説明により、プログラムの趣旨や内容、SALC の学習教材についての理解が深まったことが示された。一方で、グループセッションの登録方法に関しては、その他の項目に比べて低い評価となった。プログラムのスケジュールを作成する際には学生の時間割等に配慮したが、登録方法またはセッションのスケジュール設定等においていくらか改善の余地を示唆する結果となった。

表5 自律学修プログラムグループセッションに関する評価1 (Q. 次の文章を読んで、「全くそう思わない」から「強くそう思う」の5段階から当てはまるものを選んでください。)

項目	スコア (平均値)	スコア (%)
「洋楽を使った英語学習の紹介と実践」を通して、洋楽を使った英語学習に対する興味が更に沸いた。	3.77 (2018=3.62) (2019=4.00)	94% (2018=90%) (2019=100%)
「スピーキング上達方法の紹介と実践」を受講したおかげで、スピーキングの上達方法が分かった。	3.67 (2018=3.64) (2019=3.70)	92% (2018=91%) (2019=93%)
「映画を使った英語学習の紹介と実践」を通して、映画を使った英語学習に対する興味が更に沸いた。	3.5 (2018=3.17) (2019=3.79)	88% (2018=79%) (2019=95%)

「マンガを使った英語学習の紹介と実践」を通して、マンガを使った英語学習に対する興味が更に沸いた。	3.33 (2018=3.29) (2019=3.40)	83% (2018=82%) (2019=85%)
--	------------------------------------	---------------------------------

表5はグループセッションに関する質問とその回答を示している。洋楽、映画、マンガのグループセッションについては、セッションに参加したことにより、セッションで紹介した学習方法に対する関心が増加したかどうかについて尋ねた。スピーキングのセッションについては、スピーキング力を伸ばすための学習方法に関する知識の増加を尋ねた。これらの項目については、「グループセッションを受講していない」という選択肢を設け、受講をした参加者のみからセッションの効果について回答を収集できるようにした。表5に示す通り、洋楽、映画、マンガのグループセッションについては、全ての学習方法において関心が増加したという回答が得られた。とりわけ、洋楽のセッションにおいては、回答者22人中18人が、より学習に対する興味が沸いたかどうかという質問に対して「強くそう思う」と回答している。また、スピーキングセッションについては、24人中17人がスピーキングの上達方法が分かったかという問いに対して強く同意した。映画とマンガのセッションでは、他に比べわずかに低い評価となった。この数字は、次の表6に示すこれらの学習方法で学習を継続したかという問いに対する参加者の回答にも反映されていた。

表6 自律学修プログラムグループセッションに関する評価2

項目	「はい」と答えた割合
「洋楽を使った英語学習の紹介と実践」を受講してから自主的に洋楽を使って学習することが増えた。	83% (2018=85%) (2019=82%)
「映画を使った英語学習の紹介と実践」を受講してから自主的に映画を使って学習することが増えた。	77% (2018=55%) (2019=93%)
「スピーキング上達方法の紹介と実践」で学んだ方法で自主的にスピーキング学習を行っている。	76% (2018=71%) (2019=82%)
「マンガを使った英語学習の紹介と実践」を受講してから自主的にマンガを使って学習することが増えた。	50% (2018=31%) (2019=73%)

表6は、グループセッションを受講したことで、セッションで習った学習方法を用いて学習することが増加したかどうかを示している。この質問項目では、「はい」、「いいえ」の他、「受講していない」という3つの選択肢の中から当てはまるものを選んでもらった。スピーキングセッションを受講した回答者の75%以上が、セッションで学んだ学習方法を用いて自主的に学習を行っている」と答えた。また、洋楽及び映画のセッションを受講した回答者の多くも、セッションで習った学習方法を使って学習することが増えたと答えている。さらに、2018年と2019年の回答を比較すると、洋楽を使った学習の増加に関する項目以外を除く全ての項目において、これらの学習方法に対する関心と学習方法を使用した学習量の両方が1年目よりも2年目の方が高い結果となった。

セルフアクセスセンターにおける自律学修を促す教育プログラムの実践について

表7 自律学修プログラム個別学修相談に関する評価 (Q. アドバイジングセッションについての次の文章を読んで、「全くそう思わない」から「強くそう思う」の5段階から当てはまるものを選んでください。)

項目	スコア (平均値)	スコア (%)
アドバイジングセッションを受けたことで、より明確な英語学習の目標が見つかった。	3.84 (2018=3.75) (2019=3.93)	96% (2018=94%) (2019=98%)
アドバイジングセッションを受けたことで、今までの学習方法や学習習慣について見直すことができた。	3.81 (2018=3.75) (2019=3.87)	95% (2018=94%) (2019=97%)
今後もアドバイジングセッションを受講したい。	3.65 (2018=3.56) (2019=3.73)	91% (2018=89%) (2019=93%)
アドバイジングセッションは自主的に英語学習を進めていく上で効果的なものであった。	3.61 (2018=3.5) (2019=3.73)	90% (2018=88%) (2019=93%)
アドバイジングセッションで立てた目標や学習計画は妥当だった。	3.42 (2018=3.13) (2019=3.73)	85% (2018=78%) (2019=93%)
アドバイジングセッションの予約は取りやすかった。	3.35 (2018=3.19) (2019=3.53)	84% (2018=80%) (2019=88%)

表7は個別学修相談に関する参加者の評価を示しており、これらの回答から、個別学修相談についても回答者が肯定的に捉えていることが分かった。個別学修相談が、明確な目標設定や学習方法の見直しに最も役立ったとする回答が多く、自主学習の促進に効果的であった、今後も継続して受講したいとの回答が得られた。表4で示したグループセッションの登録に関する評価と同様、個別学修相談においても予約方法に関する項目が最も低い評価を得た。また、グループセッションに関する回答と同様に、2年目にはすべての指標が増加した。

表8 自律学修プログラム全体に関する評価1 (Q. プログラム全体に関する次の文章を読んで、「全くそう思わない」から「強くそう思う」の5段階から当てはまるものを選んでください。)

項目	スコア (平均値)	スコア (%)
自律学修プログラムに参加することで、学習に対するモチベーション (やる気) がより高くなった。	3.9 (2018=3.88) (2019=3.93)	98% (2018=97%) (2019=98%)
自律学修プログラムに参加することで、SALCの利用方法についてより知ることができた。	3.71 (2018=3.63) (2019=3.80)	93% (2018=91%) (2019=95%)
自律学修プログラムに参加することで、授業や課題以外でもより自主的に学習するようになった。	3.71 (2018=3.69) (2019=3.73)	93% (2018=92%) (2019=93%)

自律学修プログラムに参加することで、自分の英語力についてより深く考えるようになった。	3.68 (2018=3.69) (2019=3.67)	92% (2018=92%) (2019=92%)
自律学修プログラムに参加することで、以前よりもSALCに行きやすくなった。	3.45 (2018=3.25) (2019=3.67)	86% (2018=81%) (2019=92%)
自律学修プログラムに参加することで、SALCにより頻繁に行くようになった。	3.27 (2018=3.00) (2019=3.57)	82% (2018=75%) (2019=89%)

表8は、プログラムの全体的な評価を示している。ほぼ全ての質問において肯定的な回答が得られたが、「以前よりもSALCに行きやすくなった」や、「SALCにより頻繁に行くようになった」という項目に対しては、比較的低い評価となった。しかしながら、多くの回答者が、学習意欲、SALCに関する知識、自主的な英語学習、および自身の英語力を内省する力といった側面において、このプログラムが効果的であったと強く感じていることが伺える。とりわけ、英語学習に対するモチベーションの増加といった側面においては、参加者31人中28人がプログラムを高く評価していることが分かった。

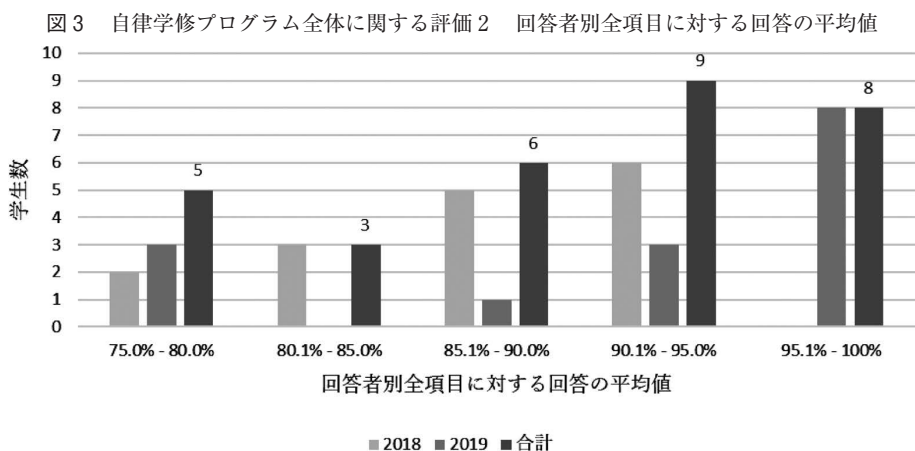


図3は、すべての質問に対する回答を回答者別にして平均を算出したものであり、こうすることで回答者それぞれがどの程度プログラムを肯定的に捉えているかを確認することができる。まず、回答者全員が75%から100%の範囲に収まり、プログラムを肯定的に捉えていることが分かった。そのうちの半数以上（31人中17人）が平均にして90%以上肯定的な回答をした。とりわけ、2019年度は回答者15人中8人がアンケート項目に対して平均95%以上の肯定的な回答をしている。これは2018年度には見られなかった結果であることから、2年目において、プログラムの実施時期や内容が改善された可能性があることを示している。

アンケートの最後には、自律学修プログラム全体に関して自由に記述する項目を設けた。参加者はプログラムが英語学習に対する意欲や、目標設定、学習方法に関する知識の習得、学習を楽しむことに役立ったと述べており、中にはプログラムに再度参加したいと回答した参加者もいた。

3.2 スピーキングプログラムに関するアンケート

スピーキングプログラムにおいては、自律学修プログラムよりも短いアンケートを実施した。アンケートには、プログラムの有用性に関する項目に関して「全くそう思わない」、「そう思わない」、「そう思う」、「強くそう思う」の4段階からもっとも当てはまるものを選ばせる質問に加え、プログラムのどのような側面が役立ったかを問う質問を設けた。このアンケートでは、プログラム参加者10人のうち9人から回答が得られた。

表9 スピーキングプログラム全体に関する評価1 (Q. スピーキングプログラムに関する次の文を読んで、「全くそう思わない～強くそう思う」の4段階の中から当てはまるものを選んでください。)

項目	スコア (平均値)	スコア (%)
プログラムは、目標に応じて適切な学習資源を選ぶ上で役立った。	2.89	96%
プログラムは、目標を達成するための学習計画を立てる上で役立った。	2.78	93%
プログラムは、モチベーションを維持する上で役立った。	2.67	89%
プログラムに参加したおかげで、英語を話す機会や量が増えた。(もし参加していなかったら英語を話す機会や量は少なかった。)	2.67	89%
他の学生にもプログラムを勧めたい。	2.67	89%
プログラムは、スピーキング力を上げる方法を知る上で役立った。	2.56	85%
プログラムは、スピーキング力向上のために、実現可能な目標を設定する上で役立った。	2.56	85%
プログラムに参加したおかげで、自分のスピーキング力やスピーキングの学習に対してよりポジティブになった。	2.56	85%

表9は、目標設定や学習計画、学習意欲の維持といった側面に関して、プログラムの有用性を評価したものである。ここでは、「全くそう思わない」を0、「強くそう思う」を3として集計を行い、表9には、それぞれの項目ごとにスコアの平均値と、それをパーセンテージ化したものを示している。全体として、すべての項目で85%以上の評価が得られた。また、どの項目においても6人から8人の回答者が「強くそう思う」と回答していることから全体的にプログラムが高く評価されていることが分かる。とりわけ、プログラムが適切な学習資源を選択し、目標を達成するための適切な学習計画を立てる上で役立ったという回答が得られた。

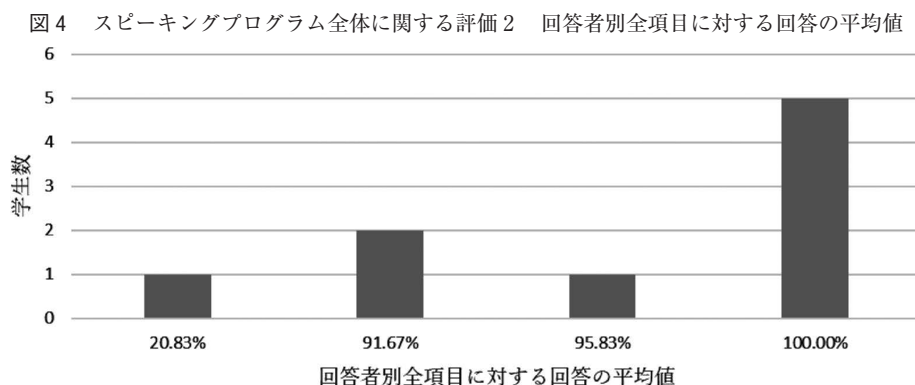


図4は、それぞれの項目に対する回答を、回答者ごとに個別に集計し平均値を算出したものを示している。アンケート回答者9人のうち8人が、アンケート項目に対して平均90%以上同意していることから、プログラムに対して非常に肯定的であることが伺える。さらに、その8人のうち5人はすべての質問に対して「強くそう思う」と回答していた。残念なことに、1人の学生はこのプログラムに対して否定的であった。これについては、後述する自由記述欄にコメントがなく、否定的な理由については回答が得られなかった。

表10 スピーキングプログラムの役立った側面 (Q. プログラムのどんな点が役に立ちましたか? 該当するものを選んでください。(複数選択可))

項目	選択された割合	項目	選択された割合
フリートークセッションを受けること	89%	第1週と3週のアドバイザーによる個別セッションを受けること	56%
会話・発音ワークショップに参加すること	78%	学習カレンダーを使うこと	56%
SALC ラウンジで先生や他の学生たちと話すこと	67%	アドバイザーが勧めてくれた市販教材、または SALC 内教材を使うこと	44%
SSS (学生同士の会話セッション) で他の参加者たちと話すこと	67%	Showbie や Teams でアドバイザーと連絡を取り合うこと	33%
自分の得意不得意分野を確認すること	56%	個別セッションやワークショップで使用した青色のプリントを使うこと	11%

表10では、プログラムのどの側面が有用であったかを示しており、ここからは、実際にスピーキングを行う活動が最も有用なプログラムの側面であったことが示唆された。9人中8人の生徒がフリートークセッション、7人が会話と発音のワークショップ、6人がSALC ラウンジで教員や他の学生と話したことが役立ったと回答した。さらに、参加者の半数以上が、アドバイジングセッションと、セッション中に活用した学習カレンダーを評価した。

アンケートの最後には、プログラム全体に対して自由に記述する項目を設けた。5人の回答者がコメントを残しており、英語を話す楽しさや、モチベーション、自信、継続したいという気持ちが増したと記述した。

4. おわりに

本稿では、広島文教大学 SALC が近年実施した英語学習者の自律性を涵養するための2つの教育プログラムについて述べた。2018年度と2019年度に実施した自律学修プログラムでは、グループセッションを通して SALC にある様々な学習資源を活用するための学習方法を紹介した。また、2回に亘る個別学修相談では、目標設定から、教材や学習方法の選定、学習計画の立て方など、自律学修を行う上で必要な学習スキルの習得を支援した。参加者を対象としたプログラム終了時のアンケート結果から、初回オリエンテーション、グループセッション、個別学修相談など、プログラムの様々な側面において肯定的な評価が得られた。とりわけ、洋楽を使った学習方法を学ぶセッションや、スピーキング力を伸ばすためのセッションに関する評価が高く、個別学修相談については、自身の学習を振り返り、学習目標を設定する上で役立ったとい

う回答が得られた。また、プログラム全体を通して、学習意欲や SALC の利用方法に関する知識が高まったという結果が示唆された。

2021年度に実施したスピーキングプログラムでは、英語によるコミュニケーションの上達に特化した学習方法を、実践を交えて伝授すると共に、既存の教育サービスの活用や学習者同士を中心とした会話練習の機会を設けた。自律学修プログラム同様、参加者を対象に行ったアンケート結果からは、プログラムの様々な側面において肯定的な評価が得られた。とりわけ、プログラムは学習目標をもとに学習計画を立て、適切な学習資源を選定する上で役に立ったという回答が得られた。また、プログラムのどのような側面が自身の学習に役立ったかという問いからは、スピーキングが練習できる既存の教育サービスの活用や、会話や発音を強化するプログラム独自のワークショップについて高い評価を得た。

このように、両プログラムのアンケート結果からは、参加者がプログラムを肯定的に捉え、有用であると感じていることが分かった。こうしたことから、参加した学習者らの学習意欲を引き出し、既存の教育サービスや学習資源を活用しながら、自律学修を行う上で必要な学習スキルの習得を支援するというプログラム設置当初の目的は、ある程度達成できたのではないかと考える。また、前述した通り、2回に亘り実施した自律学修プログラムのアンケート結果からは、2年目の評価が1年目よりも高かったことから、2年目の実施内容や形態においていくらか改善があったことが示唆された。一方で、プログラム内のセッション登録方法等に関しては、改善の余地を示す結果となった。また、学習の継続や学習効果の測定といった領域において現段階では調査できておらず、今後プログラムを実施する上での課題としたい。いずれにせよ、参加者らにはこれらのプログラムに参加したことがきっかけとなり、今後の英語学習やその他の学習において応用できる学習スキルを習得してもらえたのなら幸いである。

参 考 文 献

Bunkyo English Communication Center. (2021). *BECC Handbook 2021-22* (Unpublished internal document). Hiroshima, Japan.

—2023年1月31日 受理—